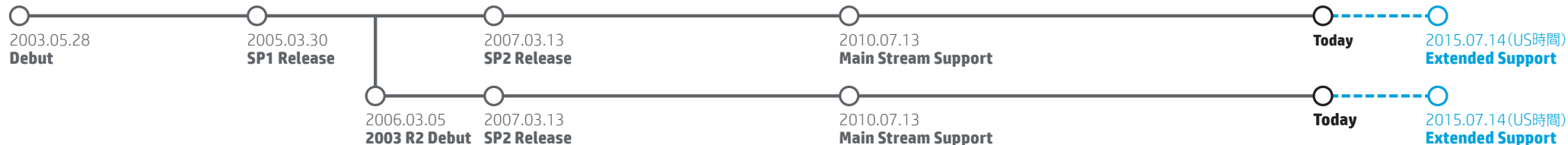
安全に関するご注意　ご使用の際は、商品に添付の取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
水、湿気、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、故障、感電などの原因となることがあります。

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ
03-5749-8330　月～金 9:00～19:00　土 10:00～17:00（日、祝日、年末年始および5/1を除く）
HP ProLiantサーバー製品に関する情報は　www.hp.com/jp/proliant
Windows Server製品に関する詳細情報は　http://www.hp.com/go/wincert

日本ヒューレット・パッカード株式会社
〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1
JPC13228-01

Windows Server® 2003/2003 R2 移行ガイド

2015年7月延長サポート終了、もう対策は済んでいますか?
まだの方必見! まず最初にお読みください。

もう対策は済んでいますか?

Windows 2000 Serverの後継として、2003年に登場したWindows Server® 2003/2003 R2。
2010年サポート終了し、2015年7月15日(日本時間)の延長サポート終了がいよいよ迫ってきました。
サポート終了のサーバー OSを使い続けることは、知らないでは済まされない大きな危険性があります。
また、サーバー OSの移行はクライアントOS以上に時間がかかりますので、"今からの移行検討"が必須です。

マイクロソフト サーバー製品サポートライフサイクル

■…メインストリーム　■…延長サポート

	発表日	メインストリーム	延長サポート
Windows Server®			
Windows Server® 2003	**2003年5月28日**	**2010年7月13日**	**2015年7月14日**
Windows Server® 2003 R2	**2006年3月5日**	**2010年7月13日**	**2015年7月14日**
Windows Server® 2008	2008年5月6日	2015年1月13日	2020年1月14日
Windows Server® 2008 R2	2009年10月22日	2015年1月13日	2020年1月14日
Windows Server® 2012	2012年10月30日	2018年1月9日	2023年1月10日
Windows Server® 2012 R2	2013年11月25日	2018年1月9日	2023年1月10日
Exchange Server			
Exchange Server 2007	2007年3月8日	2012年4月10日	2017年4月11日
Exchange Server 2010	2009年11月9日	2015年1月13日	2020年1月14日
Exchange Server 2013	2013年1月9日	2018年4月10日	2023年4月11日
SharePoint Server			
SharePoint Server 2007	2007年1月27日	2012年10月9日	2017年10月10日
SharePoint Server 2010	2010年7月15日	2015年10月13日	2020年10月13日
SharePoint Server 2013	2013年1月9日	2018年4月10日	2023年4月11日
FAST Search Server 2010 for SharePoint	2010年6月16日	2015年10月13日	2020年10月13日
SQL Server			
SQL Server 2005 Express Edition	2006年6月1日	2011年4月12日	2016年4月12日
SQL Server 2005	2006年1月14日	2011年4月12日	2016年4月12日
SQL Server 2008 Express	2008年11月11日	2014年7月8日	2019年7月9日
SQL Server 2008	2008年11月7日	2014年7月8日	2019年7月9日
SQL Server 2008 R2 / Express	2010年7月20日	2014年7月8日	2019年7月9日
SQL Server 2012 Express	2012年5月20日	2017年7月11日	2022年7月12日
SQL Server 2012	2012年5月20日	2017年7月11日	2022年7月12日

※Windows Server® 2003 Itanium版の発売日は、2003年6月19日です。※発売時期は2014年1月時点での予測であり、変更される可能性があります。※2014年1月時点での情報に基づき作成しておりますが、サポート期間等は変更になる可能性があります。※最新の情報はhttp://support.microsoft.com/lifecycle/ で確認できます。

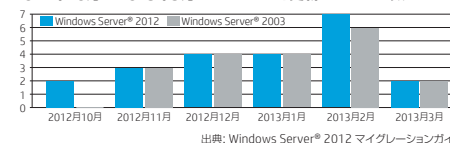
2015年7月14日(US時間)延長サポート終了
サポート終了後も使い続けたとしたら……

延長サポートの終了した
サーバー OSを使い続けることは、
こんな危険性があります。

ウィルス感染を避けられない

セキュリティ更新プログラムが提供されなくなります。2015年7月15日以降は様々な対策を取ることはできずウィルス感染から避けられなくなり、情報漏洩やシステムダウン等、最悪の事態となる可能性があります。

とは言っても、そもそも少ないんじゃないの?
そんなことはありません。たとえば、2013年11月にWindows Server® 2003に影響する脆弱性が発見されました。また、2013年12月にはWindows Server® 2003から最新のWindows Server® 2012 R2までバージョンに特定しない脆弱性も発見されています。

2012年10月～ 2013年3月のセキュリティ更新プログラム数

出典: Windows Server® 2012 マイグレーションガイド

危険
危険
危険

問題発生にも対応できない

電話やメールの情報提供は終了ですので、障害発生時の対応が困難になります。バグが発見され問題が発生しても、マイクロソフトからそれに対する修正プログラムは提供されません。

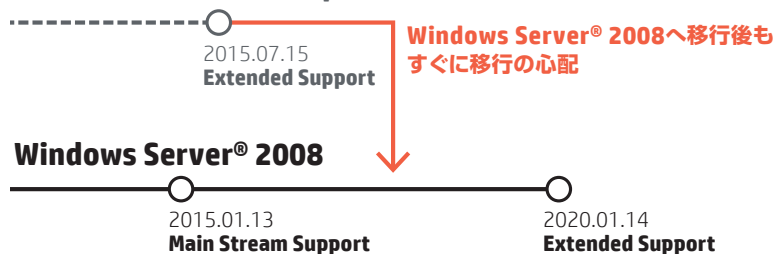
古いハードウェアの維持が難しい

古いハードウェアを使い続けることは効率が悪くなる一方です。運用にかける手間や性能、消費電力、サポート等、"損失"が増えることになります。

対策はこれ!

Windows Server® 2003/2003 R2対策には

最新環境にアップグレード

Windows Server® 2003/2003 R2の後継にあたるWindows Server® 2008は、
メインストリームサポートが2015年1月13日、延長サポートが2020年1月14日に終了と、
移行後もすぐに移行の心配をせざるをえません。
そこで移行のオススメなのが、最新の「Windows Server® 2012 R2」と、
その最適なHPのサーバー「HP ProLiant サーバー Gen8」へのアップグレードです。

HPとマイクロソフト

HPとマイクロソフトは、業界唯一のフロントライン･パートナーシップを結び、20年以上も非常に密接な協力関係の元でOSやアプリケーションの技術共同開発、マーケティング、販売活動など実施しています。
昔も今もWindows Server®の開発は、HPのサーバー上で行われており、早期の段階から動作検証を実施し、いち早くドライバーや対応ツールを提供しています。

Windows Server 2012

Windows Server® 2012 R2のここがスゴイ!

最新バージョンのWindows Server® 2012 R2は、Windows Server® 2003/2003 R2から大幅に進化しました。仮想化や管理機能、クラウドへの最適化等、数多くの機能強化が行われています。また、OEM版のライセンスもDatacenterとStandardエディション、Essentialsエディション、Foundationエディションの4つになっています。
ここでは、Windows Server® 2003/2003 R2からの移行を前提とした場合の利点をご紹介しましょう。

長期サポートされます

Windows Server® 2012 R2の延長サポートは2023年1月10日終了予定となっており、今移行すればこれから10年近くサポート対象となります。

サーバー集約で楽チン

仮想化機能で、複数台の物理サーバーを1台のサーバーに集約できます。集約すれば、管理も楽チンになるし、コストも楽チンになります。

複数台のサーバーを
1台のサーバーに集約

管理も楽チン、コストも楽チンに

イザという時も

Windows Server® 2012 R2の仮想化機能を使えば、簡単に災害対策も万全。難しい構成や設定も不要で、イザという時も安心です。

Windows Server® 2012 R2には

HPのサーバーが最適

最新のサーバーはこんなにスゴイ!

古いサーバーを使い続けることは、故障部品の調達のリスク以外にも多くのデメリットがあります。
最新のサーバーと比較すると、性能や消費電力は大幅に向上しているのです。
また、HPの最新サーバーであれば、障害対策やサーバー管理まで様々な機能が強化されていますので、
とても使いやすくなっています。

HP ProLiant サーバー
DL380 G5
（2007年発表製品）
OLD

NEW
HP ProLiant サーバー
DL380p Gen8

所要転送時間は半分以下

約3時間
（10,735秒）

約1時間
（3,780秒）

出典: 日本仮想化技術株式会社「ファイルサーバーベンチマーク検証結果報告書」
40Kの場合のベンチマーク結果です。詳細は以下のPDFをご閲覧ください。
http://h50146.www5.hp.com/products/servers/proliant/os/win_support/pdfs/benchmark.pdf

消費電力は45%削減

518W

339W

DL380 G5の消費電力は32GB構成時で算出したものです。

DL380p Gen8の消費電力はプロセッサー×2、標準搭載と同種のメモリ×8、
SAS 300GB 10krpm HDD×8台、標準搭載のHP FlexibleLOMアダプター、
PCI Express I/Oカード×1、電源2個の構成時で算出したものです。

HPの独自技術で省エネも安心

HPのサーバーは、省電力に関する規格「80PLUS」でチタン（Titamium）を取得した
高い変換効率を誇る電源を搭載。また、サーバー内部には大量の温度センサーを配備し、
必要な箇所だけ冷却し無駄な電力をカット。さらに、消費電力の上限が設定できる機能もあります。

HPのサーバーならこんなにスゴイ!

最新サーバーにアップグレードする際に、気になるのは「どこのメーカーの製品にするのか?」だと思いますが、
どこのサーバーも同じだと決めつけていませんか?
ここでは、HPの最新サーバー「HP ProLiant サーバー Gen8」を選ぶべき理由をご紹介しましょう。

HP ProLiant サーバー Gen8
全機種Windows Server®
2012 R2に対応。
www.hp.com/go/wincert

Windows Server® 2012 R2に
90日無償
初期セットアップサポート付。

ファームウェア更新や
アレイ構成等の設定も
迅速かつ容易に。

P.8 自動化

障害を検知し自動通報する
機能を搭載し、
イザという時も安心。

仮想化

災害対策や
サーバー集約向けに
仮想化で選ぶならHPが最適。

P.9

各社の最新の
サーバーの中でも、
とにかく速いのがHP。

P.9

Windows Server® 2012 R2を導入するならHP OEM版がオススメ

HP OEM版には様々な特典が満載

1. 90日無償初期セットアップサポート付
2. ワンストップサポートで、面倒不要
3. サーバーとOSを一括発注できて簡単
4. HPのディストリビューター手配で短納期

オンラインショップでも購入できます

HPのオンラインショップでは、
プリインストールモデルやバンドルパッケージをご用意。
www.hp.com/jp/directplus

HPのサーバーならこんなにスゴイ!

サーバー運用の常識を変える“自働サーバー”

HP ProLiant サーバー Gen8は、これまでのサーバー運用の常識を変える
「新体験」をもたらす画期的な機能を搭載しています。
まさに、サーバーのライフサイクル全体における工数削減を強力に支援する“自働サーバー”なのです。

CDやDVDは不要

サーバー起動後にF10キーを押すだけですぐにスタートし、インストールからファームウェア更新まで、迅速かつ容易に行えます。

監視の新しいカタチ

搭載の管理エンジンから監視を行うので、システムへの負荷も心配無用。OSからも独立しているので、電源投入時点から監視ができます。

Apps Agent
OS
CPU iLO
ProLiant Gen8

楽チン 導入
監視
分析
通報

HPに自動通報
HPがお客様へご連絡

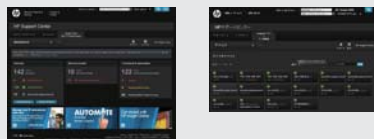
フライトレコーダー

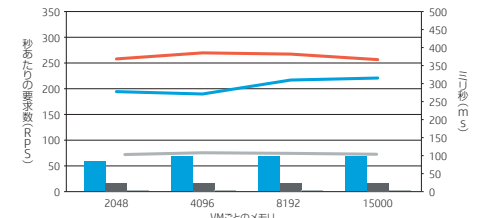
内部の1,600以上の各種パラメーターを絶え間なく自動的にロギング。障害前後の状況把握から原因特定までを強力に支援します。

自動で通報

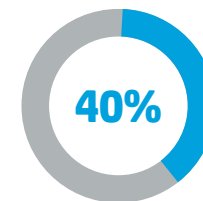
潜在的な問題があればHPがお客様へご連絡し、重大なシステムダウンを未然に防止したり、短時間で確実に問題を解決できます。

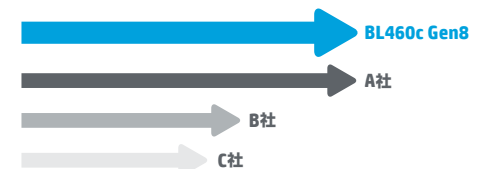
お客様専用のクラウドポータル

オンライン・ダッシュボード「HP Insight Online」は、新しいサーバー管理のクラウドサービスです。自動通報された情報、コール対応履歴、標準保証や保守契約の期間・期限などの情報を閲覧できます。

Windows Server®は HPのサーバーで開発

Windows Server®やHyper-V、SQL Server等は、HPとマイクロソフトのフロントライン・パートナーシップによってHPのサーバー上で開発されています。その結果、HPはWindows Server®のデバイスドライバーの共同開発や早期リリースができ、豊富なラインアップをマイクロソフト認定機種に対応できているのです。Hyper-V環境での各種パフォーマンスの性能検証結果がマイクロソフトの技術情報サイト「TechNet」に掲載されており、マイクロソフトの検証機にはHPのサーバーが使われていることが物語っています。

出典: TechNet「Hyper-V のパフォーマンス テスト(SharePoint Foundation 2010)」

仮想化で選ぶならHP

災害対策やサーバー集約向けに効果を発揮する仮想化。その仮想化に最適なサーバーこそ、HPの製品です。2011年から2013年Q2の期間、マイクロソフトの仮想化「Hyper-V」採用サーバー出荷台数の40%がHPのサーバーでした。

とにかく速い

各社の最新のサーバーの中でも、とにかく速いのがHP。たとえば、SAP SDベンチマーク結果では、同レベルのサーバーの中で最も速い数値を記録しました。

出典: SAP SDベンチマーク結果(2ソケットブレードサーバー) 2013年9月現在

東京生産“MADE IN TOKYO”

PCやワークステーションと同様に、HPのサーバーは「東京生産」にこだわって提供しています。「東京生産」は、日本のお客様の要求に応えるべく、高品質な製品をスピーディにお届けできます。お客様からのフィードバックに素早い対応ができるといったメリットをフルに活かし、さらなる品質の向上にも繋げられるのです。

Windows Server® 2012 R2への移行方法

Windows Server® 2012 R2への移行は、段階的に行うことが重要です。
マイクロソフトから提供されている移行ツールを活用することで、
Windows Server® 2003からの移行をスムーズに行える場合もあります。
ここでは、その具体的な方法をご紹介しましょう。

Option 1

移行ツールの活用

Windows Server®移行ツールや
Web Deploy 3.0を活用することで、
容易に移行できます。

P.11

サーバー選定:
ファイルサーバー向き

ファイルサーバーには、ドライブの搭載数が多く、外部ストレージ接続などの拡張性に優れたモデルがオススメです。

P.11

Option 2

仮想化で継続利用

アプリケーションサーバーの仮想化
によって、最新ハードウェア上に
移行できます。

P.12

サーバー選定:
仮想化向き

プロセッサーコア数やメモリ最大容量、ネットワーク帯域の幅広さが選択のポイントとなります。

P.12

Option 3

段階的なアップグレード

Active Directoryを
再インストールできない場合、
段階的に移行することができます。

P.13

サーバー選定:
WEBサーバー向き

アクセス数増加に対応できる
柔軟な拡張性を備えた
モデルがオススメです。

P.13

詳細はMicrosoft® サーバマイグレーションサイトからガイドブックダウンロードできます。
http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/local/products/windows-server-2012-r2/migration/

仮想化で継続利用するP2Vとは?

複数台のサーバーを1台のサーバーに集約する仮想化機能を使って、古いサーバーを新しいハードウェア上に移行することができます。
古いサーバーを変換させ(P2V: Physical to Virtual)、Windows Server® 2012 R2の仮想サーバー上で、Windows Server® 2003を実行します。古いサーバーのアプリケーションをそのまま新しいハードウェアに移行するので、故障のリスクが軽減し性能も大幅に向上します。
ただし、仮想サーバーにはWindows Server® 2003を使っていますので、セキュリティ対策は別途行う必要があります。

アプリケーション
Windows Server® 2003 — セキュリティのリスク
Hyper-V
Windows Server® 2012 R2
最新のサーバー — 故障のリスクが軽減し性能も大幅に向上

ファイルサーバーの移行

Windows Server® 2003のファイルサーバーをWindows Server® 2012 R2に移行する場合、
Windows Server®移行ツールを使用することで、
共有設定やセキュリティ設定、ユーザーデータファイルを容易に移行することができます。

〈1〉Windows Server® R2移行ツールをインストール

Windows Server® 2012ファイルサーバーで、[役割と機能の追加ウィザード]を使ってWindows Server® R2移行ツールをインストールします。

〈2〉移行元用の移行ツールを準備

Windows Server® 2012ファイルサーバーでコマンド プロンプトを開き、次のコマンド ラインを実行します。コマンド ラインにより、移行元のファイルサーバー用の移行ツールが指定したパスに準備されます。

C:¥Windows¥System32¥ServerMigrationTools フォルダーに移動してコマンド ラインを実行

```
SmigDeploy /package /architecture <x86 または amd64> /os <WS03> /path <移行ツールの保存先パス>
```

〈3〉移行ツールを移行元にコピー

保存先パスに準備された移行ツールをフォルダーごと移行元の Windows Server® 2003ファイルサーバーにコピーします。

移行ツールを実行するには、Windows PowerShell 2.0を移行元の Windows Server® 2003にインストールする必要があります。
Windows PowerShell 2.0 は、次のURLからダウンロードできます。
▶**Windows Management Framework (Windows PowerShell 2.0、WinRM 2.0、および BITS 4.0)**
http://support.microsoft.com/kb/968929/ja

〈4〉移行元からデータを送信

Windows Server® 2003ファイルサーバーでフォルダーごとコピーした SmigDeploy.exeをオプションなしで実行すると、Windows PowerShellが表示されます。Windows PowerShellで、Send-SmigServerData コマンドレットを以下のようなオプション指定で実行します。パスワードのパラメーター指定では、任意のパスワードを入力します。

```
Send-SmigServerData -Include All -ComputerName "移行先サーバー名" -SourcePath "移行元ファイルサーバーの共有
フォルダーのローカル パス" -DestinationPath "移行先ファイルサーバーの共有フォルダーのローカル パス" -Recurse
```

〈5〉移行先でデータを受信

Windows Server® 2003ファイルサーバーで[Windows Server®移行ツール]を表示して、Windows PowerShellで次のコマンドレットを実行します。また、Windows Server® 2012ファイルサーバーで入力したパスワードを入力します。

```
Receive-SmigServerData
```

〈6〉移行先で共有フォルダーが設定

Windows Server® 2003ファイルサーバーの共有設定とデータが、暗号化された状態で Windows Server® 2012ファイルサーバーに転送され、共有フォルダーが設定されます。

Windows Server® 2012 R2への移行方法

アプリケーションサーバーの移行

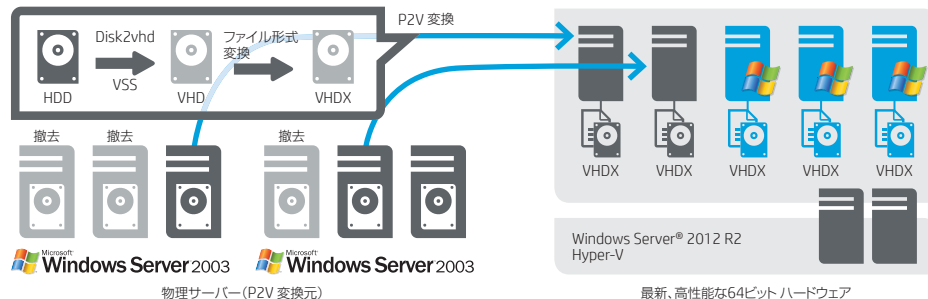
Windows Server® 2012 R2のHyper-VとP2V(Physical to Virtual)変換ユーティリティを利用することで、Windows Server® 2003を実行するアプリケーションサーバーを老朽化したハードウェアから切り離し、最新ハードウェア上の仮想化環境に移行できます。

SCVMMを利用したP2V変換のシナリオ

System Center 2012 SP1以前のVirtual Machine Managerは、ウィザード ベースで物理サーバーをオンラインのまま仮想化できる[物理サーバー変換(P2V) ウィザード]が提供されていました。この機能を利用してP2V 変換した仮想マシンを、更にWindows Server® 2012 R2のHyper-Vに移行することも可能です。

System Center 2012 SP1 Virtual Machine ManagerでP2Vを行う手順については以下をご確認下さい。
http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh427286.aspx

P2Vされた仮想マシンをWindows Server® 2012 R2にインポートする手順については以下をご確認下さい。
http://blogs.technet.com/b/scvmm/archive/2013/10/03/how-to-perform-a-p2v-in-a-scvmm-2012-r2-environment.aspx

Disk2vhdを利用したP2V変換のシナリオ

マイクロソフトが提供する無償ユーティリティである Disk2vhd でディスク イメージを VHD に直接変換して、仮想マシンに移行することも可能です。Windows XP SP2 以降および Windows Server 2003 SP1 以降を実行する物理コンピューターは、このツールを使用してディスク イメージをファイル化することで、Hyper-V の仮想マシンに移行できます。

Disk2vhd は無償配布のソフトウェアであるため、テクニカルサポートは提供されておりません。
http://technet.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/ee656415.aspx

Windows Server® 2012 R2への移行方法

Active Directory ドメイン コントローラーの移行

Windows Server® 2003からWindows Server® 2012への再インストール(インプレースアップグレード)を利用できない場合は、以下のステップによって段階的に
Windows Server® 2012 R2のActive Directoryに移行することが可能です。

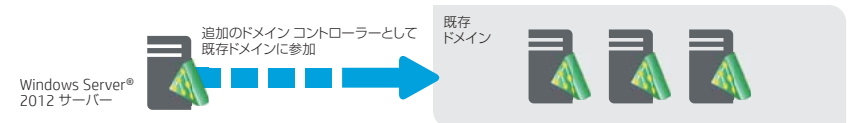
〈1〉既存のフォレスト/ドメインの機能レベルを昇格

既存のフォレストおよびドメインの機能レベルを[Windows Server® 2003]以上に昇格します。

※すべてのドメイン コントローラーが Windows Server® 2003 以降を実行している必要があります。

〈2〉既存のドメインにWindows Server® 2012 R2を追加

既存のドメインに Windows Server® 2012のサーバーを追加し、既存のドメインの追加のドメインコントローラーとしてセットアップします。既存のフォレストおよびドメインが自動的にアップグレード用に準備されます。

※Adprep によるフォレストおよびドメインの準備操作は省略できます。

〈3〉すべての操作マスター(FSMO)の役割を転送

Windows Server® 2012のドメインコントローラーに、Windows Server® 2003のドメインコントローラーからすべての操作マスター(FSMO)の役割を転送します。

〈4〉ドメインコントローラーをメンバーサーバーに降格

Windows Server® 2003のドメインコントローラーをメンバー サーバーに降格します。フォレストおよびドメインのすべてのドメインコントローラーがWindows Server® 2012であることを確認して、フォレストおよびドメインの機能レベルを[Windows Server® 2012]に昇格します。

サーバー選定ガイド

サーバー選定の一例をご用意しました。どのサーバーを選べばいいか、用途に応じて簡単にご紹介します。
さらに詳しい情報は、右記のWEBをご覧ください。 **www.hp.com/jp/Ippatsu**

	性能重視	バランス重視	コストパフォーマンス重視
WEBサーバーをご検討のお客様	• 400人以上の規模 • 社外から大量のアクセスを想定。 • 大規模なWebサービスの構築が必要。 HP ProLiant BL460c/BL465c	• 30人以上400人未満の規模 • 低コストで、必要な性能を確保したい。 • 信頼性、管理性を重視。 • 将来のアクセス増への柔軟な対応。 HP ProLiant ML350p / HP ProLiant DL160 /DL360p / HP ProLiant BL460c/BL465c	• 30人未満の規模 • 小規模に、低コストで構築したい。 • 管理機能を重視。 HP ProLiant ML310e v2/ML350e / HP ProLiant DL320e/DL320e v2/DL360e
メールサーバーをご検討のお客様	• 200人以上の規模 • 高い信頼性と管理性を重視。 • より大容量のディスク領域を搭載したい。 • より高いパフォーマンス、信頼性を実現したい。 HP ProLiant ML350p / HP ProLiant DL380p /DL385p/DL560/DL580/DL585	• 30人以上200人未満の規模 • コストパフォーマンス重視で構築したい。 • 高い信頼性と管理性を重視。 HP ProLiant ML350e / HP ProLiant DL160/DL360e/DL360p	• 30人未満の規模 • 小規模に、低コストで構築したい。 • 将来のユーザー増を見込み、管理性を重視。 HP ProLiant ML310e v2 / HP ProLiant DL320e/DL320e v2/DL360e
ファイルサーバーをご検討のお客様	• 400人以上の規模 • 拡張性、信頼性、管理性、性能が必要。 • 今後のストレージ増強を見据えている。 • HAクラスター構成による継続性を確保。 HP ProLiant ML350p / HP ProLiant DL380p/DL385p	• 30人以上400人未満の規模 • 拡張性、信頼性、管理性、性能が必要。 • 導入価格も重視。 HP ProLiant ML350e / HP ProLiant DL360e/DL360p /DL380e/DL380p/DL385p	• 30人未満の規模 • 初期導入費を抑え、手軽に導入したい。 HP ProLiant MicroServer / HP ProLiant ML310e v2 / HP ProLiant DL320e/DL320e v2/DL360e

仮想化をご検討のお客様

	サーバー3台以下	サーバー4台以上	大規模リソースプール化
開発や検証環境	• 2基のCPU搭載 • 内蔵ストレージを多く搭載可能 HP ProLiant ML350e / HP ProLiant DL360e		• 様々なシステムへのリソース割り当てを実現 • 導入コストを低減 • 外部ストレージを利用したクラスター構成 HP ProLiant BL460c / HP ProLiant BL620c / HP ProLiant BL660c HP ProLiant BL680c / HP ProLiant BL685c
社内/社外サービス用システム	• 2基のCPU搭載 • 外部ストレージを利用したクラスター構成 HP ProLiant DL380p/DL385p	• 導入コストを低減 • 外部ストレージを利用したクラスター構成 • ホットプラグディスク対応 HP ProLiant BL420c / HP ProLiant BL460c/BL465c	
プライベートクラウド基盤			• 需要に合わせた自動的なシステム配備を実現 HP CloudSystem Matrix

HP ProLiant サーバー 仕様早見表

型	製品名	世代	製品外観	ラック搭載時	プロセッサー: プロセッサーベンダー	プロセッサー: ソケット数	メモリ: ソケット数	メモリ: 冗長化	ドライブベイ: 2.5型 ベイ数(最小/最大)	ドライブベイ: 3.5型 ベイ数(最小/最大)	ドライブベイ: ホットプラグ	対応ドライブ: SAS HDD	対応ドライブ: SATA HDD	対応ドライブ: SAS SSD	対応ドライブ: SATA SSD	パワーサプライ: 冗長化	パワーサプライ: ホットプラグ対応	冷却ファン: 冗長化	冷却ファン: ホットプラグ対応	オンボード管理機能: iLO3	オンボード管理機能: iLO4	オンボード管理機能: Lights-Out 100	オンボード管理機能: Systems Insight Display	拡張管理機能: HP SIM, HP Insight Control	拡張管理機能: HP通報サービス	拡張管理機能: HP Insight Online	標準保証※5: オンサイト	標準保証※5: パーツ交換
タワー型	Micro Server	Gen8		–	Intel	1P	2			4/4			○								○			○	○	○	1年	1年
タワー型	ML310e v2	Gen8		5U	Intel	1P	4		8※7/8※7	4/4	○※7	○	○	○※7	○※7	○※7	○※7				○			○	○	○	3年	3年
タワー型	ML350e	Gen8		5U	Intel	2P	12	○	8※6/24※6	4/18	○※2	○※2	○		○※2	○※7	○※7	○			○			○	○	○	3年	3年
タワー型	ML350p	Gen8		5U	Intel	2P	24	○	8/24	6/18	○	○	○	○※2	○	○	○	○	○		○		○※6	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL160	Gen8		1U	Intel	2P	24		8/8	4/4	○	○	○	○※2	○			○			○			○	○	○	1年	3年
ラックマウント型	DL320e	Gen8		1U	Intel	1P	4		8※6/8※6	4/4	○※2	○※2	○	○※2※6	○※2	○※2	○※2				○			○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL320e v2	Gen8		1U	Intel	1P	4		4/4	2/2	○※2	○※2	○	○※2	○※2						○			○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL360e	Gen8		1U	Intel	2P	12	○	8/8	4/4	○	○	○	○※2	○	○	○	○	○		○			○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL360p	Gen8		1U	Intel	2P	24	○	8/10	4※6/4※6	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL380e	Gen8		2U	Intel	2P	12	○	8/27	4/14	○	○	○	○※2	○	○	○	○	○		○			○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL380p	Gen8		2U	Intel	2P	24	○	8/25※6	8※6/12※6	○	○	○	○※2	○	○	○	○	○		○		○※2	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL385p	Gen8		2U	AMD	2P	24		8/25	8※6/12	○	○	○	○※2	○	○	○	○	○		○		○※2	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL560	Gen8		2U	Intel	4P	48	○	5/5		○	○		○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL580	G7		4U	Intel	4P	64	○	8/8		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL585	G7		4U	AMD	4P	48	○	8/8		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	DL980	G7		8U	Intel	8P	128	○	8/8		○	○		○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	SL4540 (SL4500)	Gen8		1.4U～4.3U*	Intel	2P	12※9	○		60※9/60※9	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○	※8	※8	3年	3年
ラックマウント型	SL230s (SL6500)	Gen8		0.5U*	Intel	2P	16※9		2※9/4※9	2※9/2※9	○※7	○	○	○	○	○	○	○※2	○		○			○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	SL250s (SL6500)	Gen8		1U*	Intel	2P	16※9		4※9/4※9		○	○	○	○	○	○	○	○※2	○		○			○	○	○	3年	3年
ラックマウント型	SL270s (SL6500)	Gen8		2U*	Intel	2P	16※9		8※9/8※9		○	○	○	○	○	○	○	○※2	○		○			○	※8	※8	3年	3年
ブレード型	BL420c	Gen8		0.6U*	Intel	2P	12	○	2/2		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3		○		○※4	○	○	○	3年	3年
ブレード型	BL460c	Gen8		0.6U*	Intel	2P	16	○	2/2		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3		○		○※4	○	○	○	3年	3年
ブレード型	BL465c	Gen8		0.6U*	AMD	2P	16		2/2		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3		○		○※4	○	○	○	3年	3年
ブレード型	BL620c	G7		1.25U*	Intel	2P	32	○	2/2		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3	○			○※4	○	○	○	3年	3年
ブレード型	BL660c	Gen8		1.25U*	Intel	4P	32	○	2/2		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3		○		○※4	○	○	○	3年	3年
ブレード型	BL680c	G7		2.5U*	Intel	4P	64	○	4/4		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3	○			○※4	○	○	○	3年	3年
ブレード型	BL685c	G7		1.25U*	AMD	4P	32		2/2		○	○	○	○	○	○※3	○※3	○※3	○※3	○			○※4	○	○	○	3年	3年

※1 オプションのリモートアクセスカードキットで対応　※2 一部モデルで対応　※3 ブレード エンクロージャー側に装着します。ホットプラグ対応　※4 ブレード エンクロージャーにInsight Displayが搭載されています。　※5 SATA HDDの標準保証は本体の保証期間にかかわらず1年間となります。その他のオプションの標準保証についてはwww.hp.com/jp/support/warranty_serverにてご確認ください。　※6 CTOのみ　※7 オプションで対応　※8 対応予定　※9 1ノードあたりのスペック　*シャーシ/エンクロージャーに収容するタイプの製品は、ノードあたりの大きさ（HP BladeSystemはc7000搭載時）※2014年1月現在